

くたばれ東京ギャング

西村 不可止

平成20年5月23日(金)午後6時44分、東京出張の仕事を終え、友人のうどん店で少しのビールとうどんを食べた後のことである。日本橋本町一丁目10番の歩道上を、私は携帯電話で話をしながら広島行の新幹線に乗るため東京駅南口に急いでいた。

その時、左手に何か当たったのを感じた。「失礼」と声を発しながら、そのまま東京駅に進もうとした。すると前から男(以下B)が立ちふさがった。

B「携帯電話をしながら歩いてたんじゃ危ないじゃないか」男は50歳代、170センチくらいで大柄、髪は黒いが薄い。スーツは着ているがサラリーマンとは思えない、目つきが鋭い。

直後、後ろから155センチくらいの小柄で黒っぽいブレザー、眼つきが素人ではない男(以下A)が声を掛けて来た。

A「めがねが壊れた。修理してもらわんといかんでな、五万円とは言わんが、すぐに修理してくれや、明日はクルマに乗らにゃあかんでな」。メガネを見ると接合部の部分にひびが入っている。バッグも持っておりメガネがバッグの中にあったのか、手に持っていたのかは不明。ひびが入る筈はない状態だ。私「今はこれしかない。これでこらえてください」と言って財布の中身をみせ全額の九千円を渡す。

A「全部だったら帰りが困るだろ、千円持っていけ」と言って九千円の中から一枚を戻してくれた。

クソッ、絡まれた。でも八千円で怪我なく済んだか。再び東京駅に向かおうとした。

今度は横から男(以下C)が

C「気をつけにゃあ」。Cは一部始終を見ていた。Bの左側なので逃げるのを防ぐ役目だったのだろう。三人に囲まれていたのだ。

私はやっとのことで最終便の新幹線の自由席に間に合った。でも週末の遅い便、名古屋まで立ちっぱなしだった。自宅着は翌日。東京は怖い、その日は寝つきが悪かった。

広島に帰り、広島駅前派出所に恐喝されたことを相談に行った。最初は「広島県民の方が被害に遭ったのだったら」と言って聞いていた。被害届を受理する段となるとオミヤ入りになることが予想された。急に「納得して払われたのでこれは民事です」と言う。(納得じゃない!)

ではと、警視庁中央警察署にファクスと電話で届けた。「こんな事件は良くあるの」と聞くと「当署管内では聞いたことはない。ただ神田や秋葉原では、よくメガネが壊れたなどといって地方から来たお年よりを狙っての事件を聞いている」。(それってワシのことか。!!)

それ以来、今度は逆にハメてやろうと日本橋界限で右手に携帯電話、左手にアタッシュで歩いている。が、まだ遭遇していない。くたばれ東京ギャング!!!